

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との連携と貢献をはかることを理念に掲げ、以前から地域の中での生活を重視した取り組みをしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	管理者は職員に月1回のミーティングの時、理念について話しており、日々の取り組みの中でも折に触れ話すようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館や婦人会等に働きかけボランティアを募り、敬老会等の行事に参加してもらい楽しいひとときを過ごしている。また、地区の生産者の店に利用者も一緒に買物に出かけ地域の人と交流することに努めている。	○	地域の人から山菜を頂いたり、子どもと散歩したり少しずつホームを理解されるようになってきているが、公民館や保育園等の地区の行事に参加できるようにさらに働きかけることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で話し合い検討している。また、評価結果は運営推進会議で家族等にも報告し、意見をいただいている。		

宮崎県都城市 グループホームふるる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの現状や家族会で出た意見などを報告し、意見交換をしている。また、会議での意見は職員ミーティングで見直し、改善を必要とする事に関しては、具体的に改善策を立てている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険にかかわるショートステイ導入や、事故報告、苦情処理等の相談など市町村の担当者との連携を密にすることでサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	衣類等の相談や健康状態に関しては電話で連絡をしている。例年2～3か月に1回発行していた広報紙を昨年は一年分まとめて年末に発行している。	○	ホームで暮らしている利用者の楽しそうな様子がよく分かる広報紙を例年のように発行されることを、利用者・家族のためにも期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見を運営推進会議で報告しアンケートを採るなど解決に向けた取り組みをしている。意見箱を設置している外、家族の訪問時に意見を聞くなどしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一部に人材派遣の契約社員がいるが半年から一年以上継続勤務しており、職員と同じ形態の勤務や、月1回のカンファレンスにできる限り出席してもらい情報を共有するなどして利用者の不安などに影響がないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部研修に参加し、復命書により報告や回覧をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム連絡協議会の研修に参加しているが、同業者との交流とまでには至っていない。	○	管理者だけでなく職員も他のグループホームなどと学習会や交流を持つことにより、サービスの質の向上に取り組んでほしい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	介護支援事業所からの紹介で急な受け入れとなるケースもあるが、事前訪問や受け入れ前見学を推進するなどなじみの関係構築に努める姿勢がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は同じ目線で対応するようにして、調理方法や味付け、花の植え方などを習いながら、お手伝いという形で一緒に行うように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式（認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式の略）のアセスメントシートを使い本人の希望や家族の要望など、利用者一人ひとりの把握に努め検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はケアスタッフが意見を出し合って作成している。ミニケアカンファレンスには本人、家族、担当者等が出席し、主治医等関係者の意見を取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月介護計画の見直しを行い、状態に変化が生じた時は、本人本位の現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を生かし受診の支援、外出外泊、ショートステイなどグループホームの多機能性を活かした支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居した後も、そのまま掛かりつけ医として受診し、緊急時でやむを得ない場合は家族の了解を得て協力医院で受診するようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期を住み慣れたホームにて過ごしたいと希望される利用者に対して、家族・主治医等と連携・協力を図りながら受け入れることを入居契約時に重要事項説明書にて説明し、了解を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護については契約時に本人・家族に説明するとともに、日常生活の中で職員は言葉かけなどに尊厳や感情に配慮した取り組みをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、本人の希望に沿うように朝もゆっくり休ませている。利用者の穏やかな雰囲気からその人らしく希望に沿った支援がされている様子うかがわれた。		

宮崎県都城市 グループホームふるる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い、季節感のある料理を利用者それぞれの嚙下状態にあわせて調理している。同じように盛りつけられた食事を皆さんおいしそうに完食された後、職員と後片づけや食器拭き、テーブル拭きをしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の体調変化や希望に配慮した入浴支援ではあるが、曜日や時間帯がホーム側の都合により決められている。	○	職員のローテーション等で困難な場合（ケース）もあるが、利用者一人ひとりの生活習慣や希望に沿った入浴支援ができないか、あきらめずに試みてもらいたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中では部屋の掃除や畑を耕したり、花を植えたり、野菜を収穫する外、調理の下ごしらえなど一人ひとりの生活歴に応じた取り組みをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や体調にあわせて散歩や買物に出かけるようにしている。時には中庭でレクリエーションを行い、また、温泉に出かける等の外に出る機会をつくるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昔の習慣で夜も鍵をかけずに生活されていた利用者もいる。鍵をかける事による弊害を全ての職員が理解し、鍵をかけない自由な暮らしづくりが持続できるように努めている。		

宮崎県都城市 グループホームふるる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害（火災）を想定した訓練が年1回のみにとどまっている。近隣の地域住民へも協力要請はされていない。勤務の都合により、訓練に参加できていない職員もいる。	○	消防署や関係機関等の協力を得て、利用者とともに定期的な避難訓練、避難経路の確認が望まれる。また、紙面による訓練も期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一覧表に一人ひとりの体重、食事の摂取量、水分、栄養摂取量を記録し把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高窓の天井が高く、差し込む日差しがリビング等共用空間を明るく快適にしている。時計やカレンダーの設置場所等共用空間に生活感、季節感が感じられなかった。	○	共用空間に生活感、季節感があまり感じられないので、建物に合わせた家庭的で、落ち着いた装飾品や調度品、時計、暦での雰囲気づくりが望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やお位牌等を持ち込み写真を飾ってある部屋もあるが、壁には押しピンや釘をさすことを禁じてあるので飾り物や置物も少なく居心地良く、落ち着ける場所とは言い難い。	○	持ち込みの家具などが少ない居室には壁に思い出の写真や絵画などを自由に飾り、利用者の居心地よい部屋としての配慮がほしい。

※  は、重点項目。